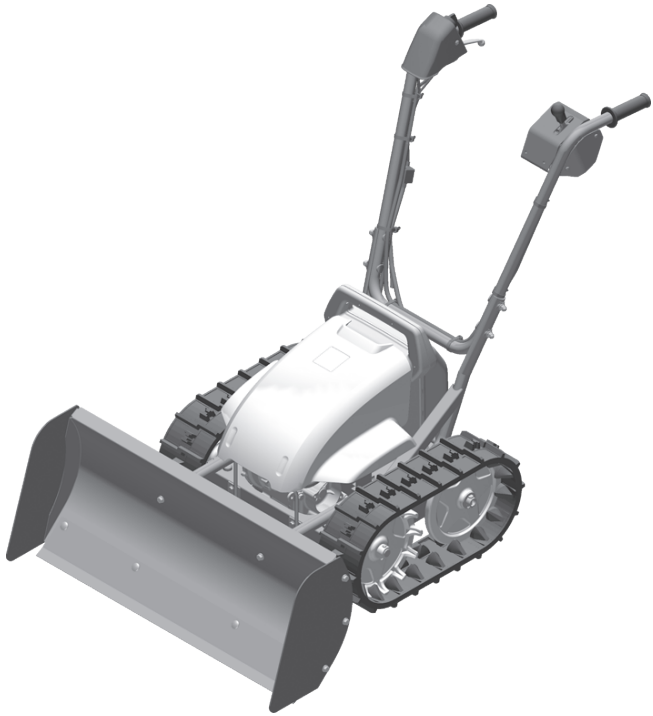
HONDA
汎 用 製 品

除雪機
SB800e
取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

Honda 除雪機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

・**本機は除雪以外の目的で使用しないでください。**
思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
故障の原因となるばかりでなく、製品保証の対象外となる場合があります。

取扱説明書について

この取扱説明書は

ー本機を運転するときは、必ず携帯してください。

ー除雪機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。

ー紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

リサイクルにご協力を

SB800e のバッテリーには、鉛蓄電池を使用しています。

ご使用済みの鉛蓄電池は、貴重な資源として再利用が可能です。不要になったバッテリーは、お買いあげの販売店へお渡しください。



リサイクルマークについて

矢印を基調にしたマークは、地球の環境保全を考え、鉛蓄電池をリサイクルしましょうという願いを込めたものです。

は　じ　め　に

この取扱説明書は、お買いあげいただいた除雪機で安全かつ能率的な除雪作業をする手助けとして編集されたものです。

取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目　　次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう 4
安全ラベル 6

各部の名称と取扱いをおぼえましょう 7
電源スイッチ / 電源スイッチキー 9
走行レバー 9
変速レバー 10
インジケーターランプ 11

バッテリーパックについて 12
バッテリーの特性 14
充電のしかた 14
バッテリーパックの取外し・取付けのしかた 18

作業をする前に点検しましょう 27
使用する前に 27
バッテリー残量の点検 28

運転操作のしかた 29
1. 起動 29
2. 運転操作 29
3. 除雪のしかた 31

除雪機の止めかた 33

定期点検を行いましょう 35

点検・整備のしかた 36
付属部品 36
専用充電器、電源コードの点検 36
バッテリーパックの点検 36
クローラーの点検 37
スクレーパーの点検 38
ヒューズについて 39
各部の作動点検 39

運搬するときは 40
長期間使用しないときの手入れ 43
故障のときは 45
主要諸元 53

安全にお使いいただくために

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

• 作業を始める前に

・過労や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。

・この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上自分で操作してください。

・間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。

・電源スイッチを入れる前に必ず「作業をする前に点検しましょう」（27 頁～ 28 頁）の項目を行ってください。事故や機器の損傷の防止になります。

・悪天候などで視界の悪いときは作業をしないでください。事故の危険性が高くなります。

・適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも除雪機の運転操作をさせないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。

・カバーやラベル類、その他の部品を外して除雪機を操作しないでください。また誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。

・本機は除雪以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

・除雪作業を行う前に除雪しようとする場所の作業前確認をしてください。ケガや除雪機の故障の原因となることがあるので石、棒、板、針金などの障害物を取除いてください。また降雪した後で障害物が見えなくなる場合があるのでシーズン前にあらかじめ除雪する場所の障害物を取除くようにしてください。

・作業をする時は、手袋、帽子、防寒服、防寒靴など防寒用の身支度をしてください。また防寒靴はすべり止めのあるものを着用してください。

・本機の操作をおこなう場合には、必ずハンドルを持ち、中央部に位置してください。

・定められた本機の点検を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理をしておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。

・屋根に積った雪や急斜面での除雪は行わないでください。除雪機が転倒して作業者や近くにいる人にケガをさせることがあります。

こ れ だ け は ぜ ひ 守 り ま し ょ う

警告

・本機は照明が装備されていないため、夜間や暗い場所での使用はしないでください。

・砂利のある区域を除雪する場合は石はねに十分注意してください。

• 作業中の注意

・回転部分に触れると大ケガをするおそれがあるので、手足などを絶対に近づけないようにしてください。また、作業範囲に人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。

・急発進は、絶対に行わないでください。思わぬ事故の原因となることがあるので走行レバーは徐々に操作してください。

・雪の上での作業は滑りやすく、転倒するおそれがあります。

  ・滑りやすい場所では、低速で運転してください。

  ・除雪中は、足元に注意しハンドルをしっかり握ってください。

  ・方向転換は、必ず本機を水平にし十分速度を落として行ってください。

  ・後進時には、足元および後方の障害物に十分注意して、転倒したり障害物にはさまれないように運転してください。

・共同作業は行わないでください。思わぬ事故を招くことがあります。

・除雪中障害物に当ったときはすぐに走行レバーを放し、電源スイッチを“停止”の位置にし、電源スイッチキーを抜いてから損傷を調べてください。確認しないで再起動すると思わぬ事故につながります。

・駐車をするときは平坦な場所を選んで駐車してください。傾斜地に駐車すると、本機が空走し事故の原因になります。

• 作業が終ったら

・本機から離れるときには、ブレードを路面に接地させ、変速レバーを“中立”の位置にし、必ず電源スイッチを“停止”の位置にしてから、電源スイッチキーを抜いてください。

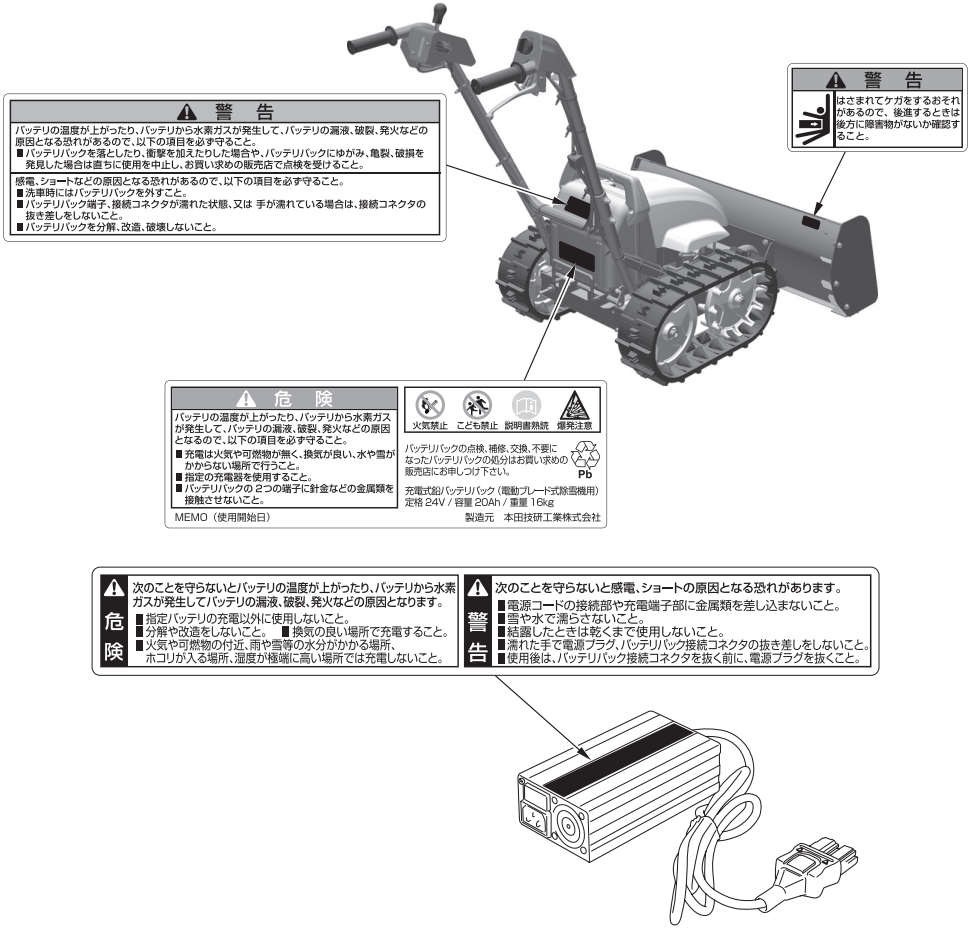
・長期保管時には、必ず電源スイッチを“停止”の位置にし、電源スイッチキーを抜き、バッテリーパックから接続コネクターを取外してください。

・点検や清掃をするときは、必ず電源スイッチを“停止”の位置にし、電源スイッチキーを抜いてから作業を行ってください。

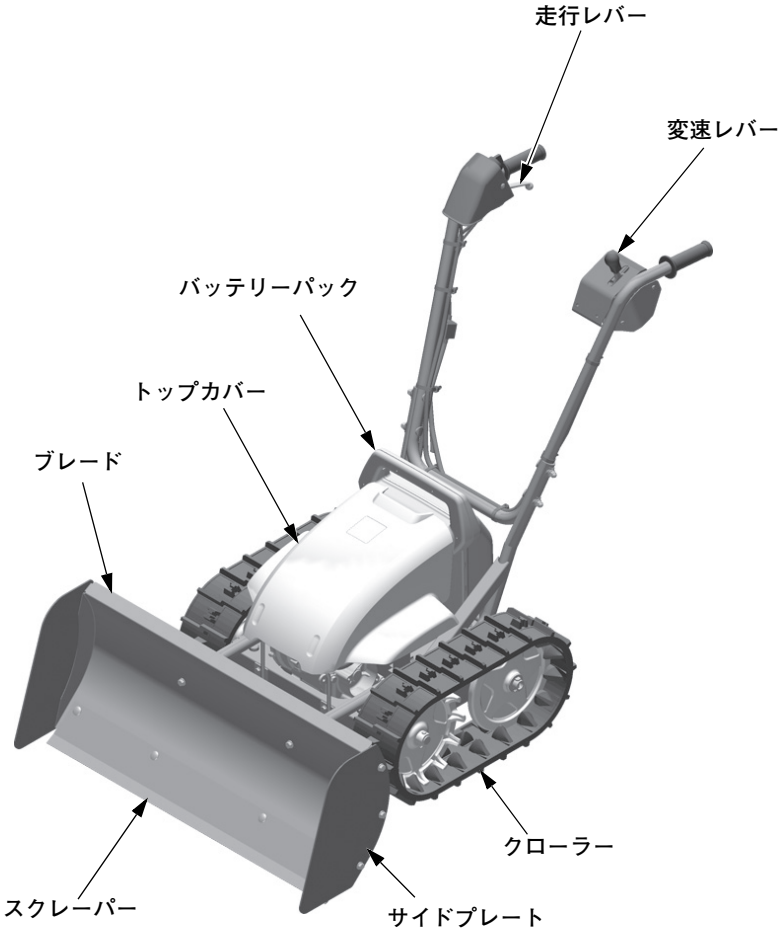
安全ラベル

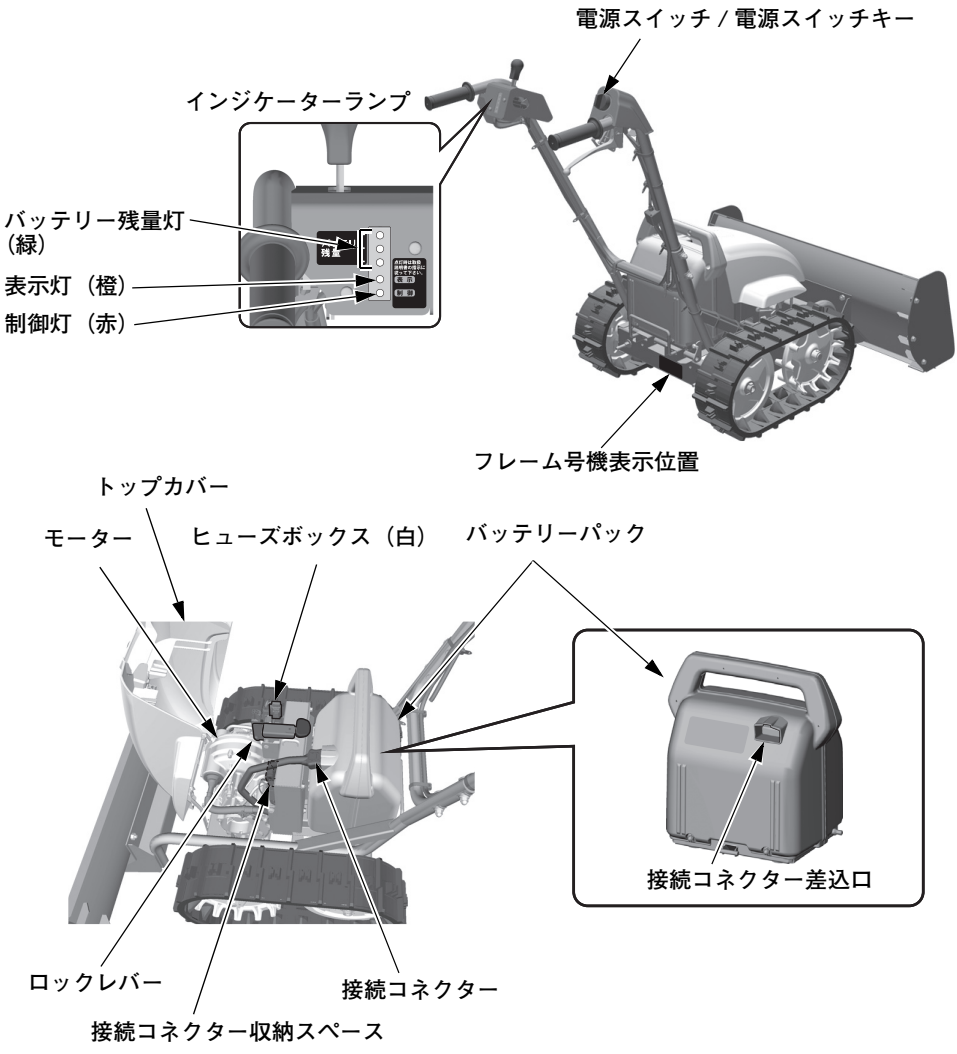
除雪機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。

本機に貼ってあるラベルが破れ、紛失または汚れなどで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。



各部の名称と取扱いをおぼえましょう




電源スイッチ / 電源スイッチキー
インジケーターランプ
バッテリー残量灯
（緑）
表示灯（橙）
制御灯（赤）
フレーム号機表示位置
トップカバー
モーター
ヒューズボックス（白）
バッテリーパック
接続コネクター差込口
ロックレバー
接続コネクター収納スペース
接続コネクター

電源スイッチ / 電源スイッチキー

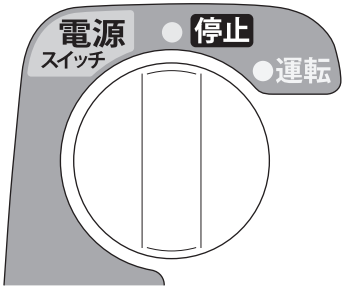
本機を運転、停止するときに操作します。

操作するときは、走行レバーから手を放してください。

停止：本機を停止するときの位置です。

（電源スイッチキーの抜取り、差込みができます。）

運転：本機運転時の位置です。

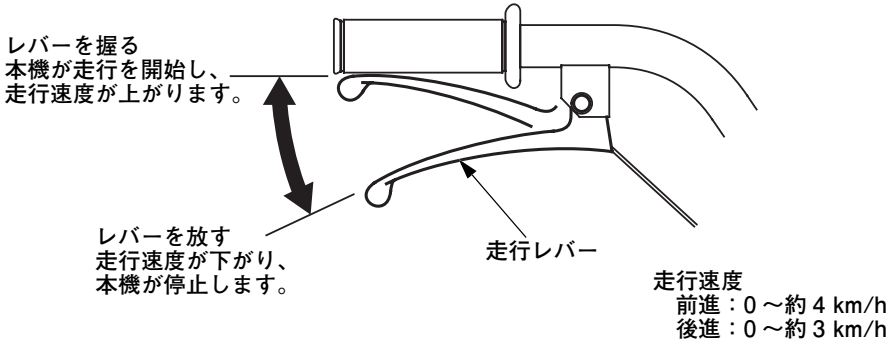


走行レバー

本機を走行、停止させるときに操作します。

走行速度は、変速レバーで設定した最高速度まで、走行レバーの握り加減で無段階に調整することができます。

最高速度は制限することができます。お買いあげ販売店、もしくはサービス店へご相談ください。



変速レバー

本機の前進、後進を切換えます。

また、変速レバーの位置により、前進、後進するときの最高速度を設定します。

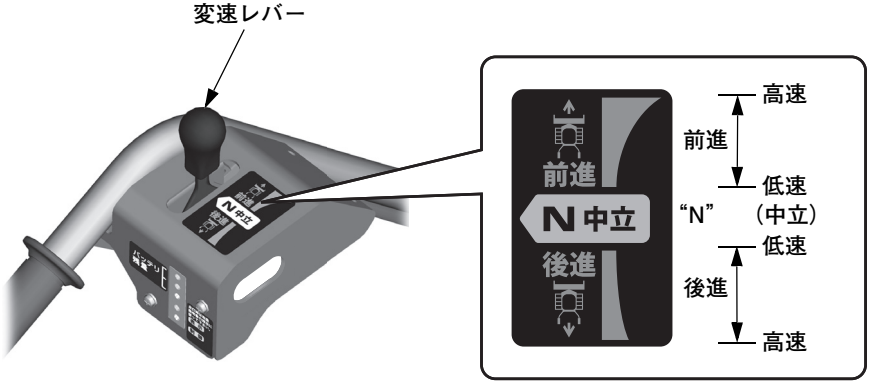
操作するときは、走行レバーから手を放してください。

前進するときは・・・・・・・・・・ “中立” の位置から “前進” の位置に動かします。

後進するときは・・・・・・・・・・ “中立” の位置から “後進” の位置に動かします。

安全のため前進、後進するときの最高速度の設定は本機を止めてから操作してください。

最高速度は制限することができます。お買いあげ販売店、もしくはサービス店へご相談ください。

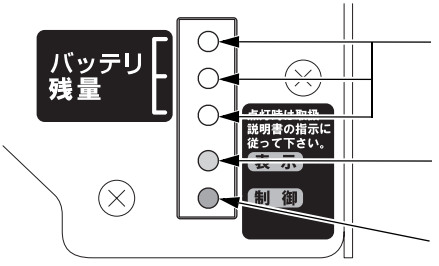


取扱いのポイント

走行レバーを握りながら、変速レバーを “前進” から “後進”、もしくは “後進” から “前進” へ素早く操作した場合、走行中進行方向切換時停止機能が作動します。変速レバーを操作する際には、走行レバーから一度手を放してください。

インジケーターランプ

インジケーターランプの表示から、バッテリーの残量や本機の状態を確認します。



バッテリー残量灯（緑）
バッテリーの残量を表示します。

表示灯（橙）
本機の故障や状態を表示灯（橙）の
点灯と点滅により知らせます。

制御灯（赤）
本機の故障を制御灯（赤）の
点灯により知らせます。

バッテリーパックについて

⚠警告

• ご使用上の注意

・バッテリーパック内には鉛蓄電池を使用しています。バッテリー液は希硫酸です。バッテリー液が皮膚や衣服に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流してください。また、バッテリー液が目に入ったときは、すぐに多量の水道水などのきれいな水で洗った後、医師の治療を受けてください。希硫酸が目に入ると失明をしたり､皮膚に付くとヤケドの原因となります。

・洗車時にはバッテリーパックを外してください。感電、ショートなどの原因となるおそれがあります。

・バッテリーパックの端子に針金などの金属類を接触させないでください。感電、ショートなどの原因となるおそれがあります。

・バッテリーパックの端子、接続コネクターが濡れた状態、または手が濡れている場合は接続コネクターの抜き差しを行わないでください。感電、ショートなどの原因となるおそれがあります。

・バッテリーパックを分解、改造、破壊しないでください。分解、改造、破壊すると金属端子が露出し、感電、ショートなどの原因となるおそれがあります。

・バッテリーパックを落としたり、衝撃を加えたりした場合や、バッテリーパックにゆがみ、亀裂、破損を発見した場合は直ちに使用を中止し、お買いあげ販売店で点検を受けてください。バッテリーの温度が上がったり、バッテリーから水素ガスが発生して、バッテリー液の漏液、破裂、発火などの原因となるおそれがあります。

• 保管及び使用場所について

・バッテリーパックを炎天下の自動車内、直射日光の強いところ、ストーブの前面や火のそばなどで使用したり、保管しないでください。これらの場所で使用したり、保管したりするとバッテリー液の漏液、破裂、発火などの原因になるおそれがあります。

・バッテリーパックは、乳幼児の手の届かないところに保管してください。また、使用時に乳幼児が本機や充電器からバッテリーパックを取り外さないように注意してください。

⚠警告

• バッテリーパックの寿命について

満充電にしても運転時間が著しく短くなったと感じた際は、内蔵バッテリーの交換についてお買いあげ販売店にご相談ください。そのまま継続使用した場合、バッテリーの内部ショート、電槽の破損などが発生してバッテリー液の漏液、破裂、発火などの原因となるおそれがあります。

⚠注意

バッテリーパックの端子が腐食、バッテリー液が漏液するなど、これまでと異なる現象に気が付いたときは、直ちに使用を中止して、お買いあげ販売店へご相談ください。

取扱いのポイント

・使用温度範囲はー 25 ℃～ 15 ℃です。また、充電推奨環境温度は 10 ℃～ 25 ℃です。この温度範囲以外ではバッテリーの性能や寿命の劣化につながるおそれがあります。

・バッテリーパックと接続コネクターの接続部をきれいにしてご使用ください。バッテリーパックと接続コネクターの接続部が汚れていると本体との接触が悪くなり電源が切れたり、充電できなくなるおそれがあります。

・バッテリーパックの汚れを吹き取るときはガソリン、シンナー、ベンジンなどは使用しないでください。変形・損傷の原因となるおそれがあります。また、乾いた布で拭き取ると静電気が発生し、発火の原因となるおそれがあります。

・落雷時には充電を中止してください。

・本機を持ち上げたり、前後左右に動かしたりする場合は、バッテリーパックのハンドルを持って行わないでください。故障の原因になるおそれがあります。

・作業後は必ず電源スイッチを “ 停止 ” の位置にしてください。24 時間以上 “ 運転 ” の状態で放置するとバッテリーが消耗し使用できなくなるおそれがあります。著しくバッテリーが消耗した場合、専用充電器での充電ができなくなるので、お買いあげ販売店、もしくはサービス店にご相談ください。

バッテリーの特性

毎回の除雪作業が終わった後に、充電するよう心がけましょう。

作業後に放置しておくとバッテリーが劣化し寿命が短くなります。バッテリーが劣化すると、作業できる時間が短くなります。

バッテリーの劣化を防ぐために、少なくとも 3ヶ月に一回は専用充電器で仕上げ充電が完了するまで充電してください。

バッテリー残量を使いきってから充電する必要はありません。途中の状態（バッテリー残量を使いきる前）で充電しても、バッテリーの寿命に影響はありません。

使用温度範囲であっても温度が低くなるほど作業時間が短くなる傾向があります。

充電のしかた

⚠警告

- 異常充電による事故を防ぐため、必ず SB800e の専用充電器で充電してください。指定以外の充電器を使用した場合、異常充電によりバッテリー液の漏液、破裂、発火などの原因となるおそれがあります。
- 充電は火気や可燃物が無く、換気が良い、水や雪がかからない、平坦で落下等のおそれが無い安定した場所で行ってください。
- 充電中はバッテリーに火気を近づけないでください。充電中は、バッテリーから可燃性のガスが発生しますので、火気（ストーブ・たばこの火など）のある場所では充電しないでください。引火、爆発のおそれがあります。
- 充電は子供、ペットが触れない場所で行ってください。
- 感電事故を防ぐため、濡れた手で電源プラグ、バッテリーパックの端子、接続コネクターを触らないでください。また電源プラグ、バッテリーパックの端子、接続コネクターが濡れた状態で、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。手と電源プラグ、バッテリーパックの端子、接続コネクターの水分は拭き取り、よく乾かしてください。
- 感電事故を防ぐために、電源プラグを抜いた後に、バッテリーパックから接続コネクターを抜いてください。
- 漏電事故を防ぐために、使用後は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合には、充電を中止してください。所定の充電時間を超えて充電するとバッテリー液の漏液、破裂、発火などの原因になるおそれがあります。

取扱いのポイント

・推奨充電環境温度は 10 ～ 25 ℃です。推奨充電環境温度の範囲外で充電した場合、作業できる時間が短くなりますので注意してください。

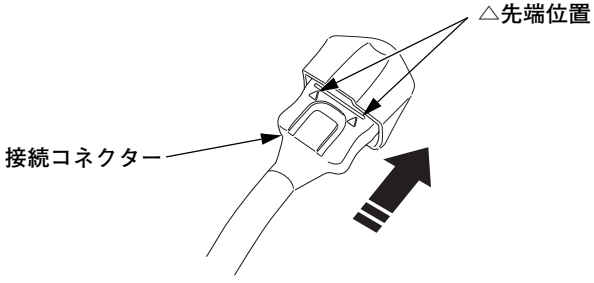
・雷が近づく前に充電を中止してください。遠くに稲妻が見えたり雷鳴が聞こえ始めた時点で、早期に電源プラグをコンセントから抜いてください。

・保管中は少なくとも 3ヶ月に一回は専用充電器で仕上げ充電が完了するまで充電してください。指定期間を大幅に超えても充電しなかった場合は、バッテリーが消耗します。著しくバッテリーが消耗した場合、専用充電器での充電ができなくなるので、お買いあげ販売店、もしくはサービス店にご相談ください。

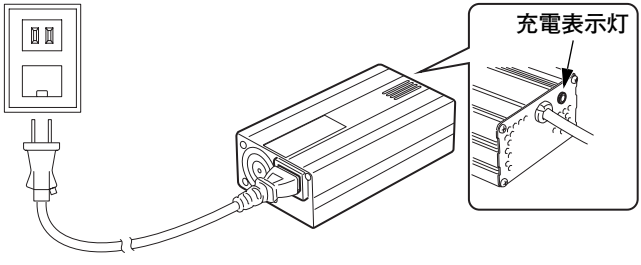
・本電源コードはSB800e用バッテリーパック専用充電器以外の電気機器には使用できません。

・充電の手順

1.バッテリーパックの差込口に、充電器の接続コネクターを△の先端の位置まで差し込みます。



2.充電器と電源コードをつなぎ、電源プラグを家庭用 100V コンセントに差し込みます。充電が開始されます。



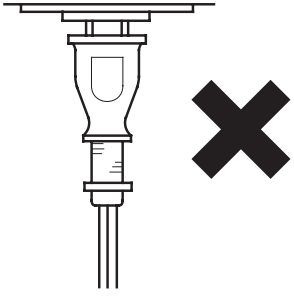
充電中は、充電表示灯で充電状態が確認できます。

充電表示灯	状態	説明
（緑点滅）	待機中	充電器が充電可能な状態です。
（橙点灯）	充電中	充電中です。
（緑点灯）	仕上げ充電中	長期保管用の仕上げ充電中です。 バッテリーは満充電になっています。
（消灯）	充電完了	仕上げ充電が完了しています。
（赤２回点滅）	保護機能作動	充電異常が発生し、充電を中止しています。

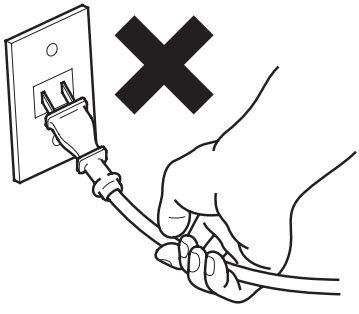
⚠警告

- 損傷、変形のある電源コードや電源プラグを使用しないでください。感電、ショート、発火の原因になるおそれがあります。
- 発熱、破損および感電のおそれがありますので、プラグの抜き差しは確実に行ってください。

根元まで差し込んでください。



抜くときはコードを持たず、電源プラグを持って抜いてください。

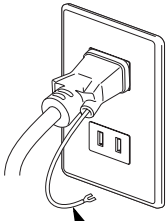


- 延長コードを使用するなどして、屋外で電源プラグを接続する場合は、水や雪などがかからないように注意してください。感電の原因になるおそれがあります。

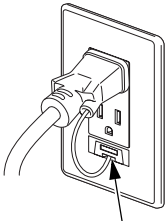
取扱いのポイント

アースについて

- 充電器の電源コードには、漏電から充電器内部の回路を守るためにアースコード（緑色）がついています。
- 充電される場所にアース端子が無い場合でも、充電することはできます。
- コンセントにアース端子がある場合、アースコードをコンセントのアース端子に取り付けてください。
- アース接続の有無にかかわらず、ご使用後は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



アースコード（緑色）



アース端子

3. 充電表示灯が緑点灯または消灯すれば満充電です。
- 充電表示灯が緑点灯（仕上げ充電中）のときにバッテリーは満充電になっています。通常の使用中は、満充電状態でも仕上げ充電が完了した状態でも作業時間に影響はありません。
- 充電に要する時間の目安は、満充電の場合は最長 12 時間、仕上げ充電の場合は最長 17 時間です。低温環境では充電時間が長くなることがあります。
- 充電が完了すると、充電は自動的に停止します。

4. 感電や漏電などの事故を防ぐために、充電が完了したら電源プラグを抜いた後に、バッテリーパックから接続コネクターを抜いてください。

・充電時の異常表示

充電時に異常があると、充電表示灯が点滅し、充電が中止されます。

電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーパックとの接続を外したうえで、お買いあげ販売店へご相談ください。

バッテリーパックの取外し・取付けのしかた

⚠注意

バッテリーパックの取外し、取付けの際に、トップカバー、ロックレバーに指などを挟まないよう注意してください。

取扱いのポイント

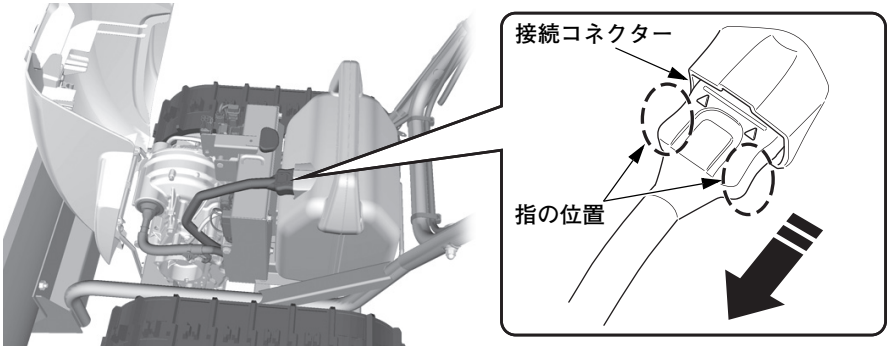
バッテリーパックの取外し、取付けは水平な場所で行ってください。

・取外しの手順

1.電源スイッチを “**停止**” の位置にし、電源スイッチキーを抜いてください。

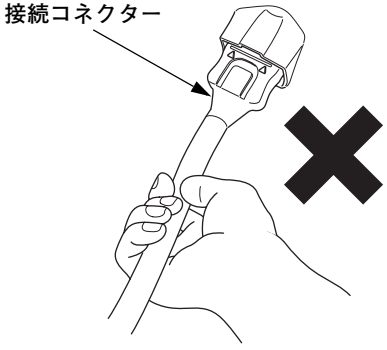


2.トップカバーを開け、バッテリーパックの接続コネクター差込口や接続コネクターの周りに雪や水滴等がないことを確認します。その後、接続コネクターの側面をつまんでバッテリーパックから接続コネクターを抜きます。

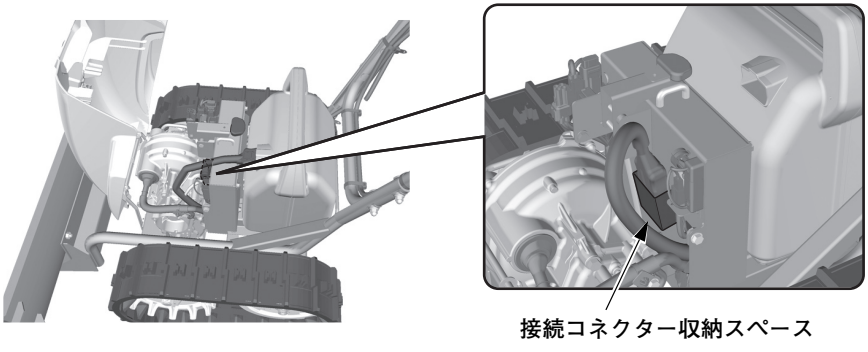


取扱いのポイント

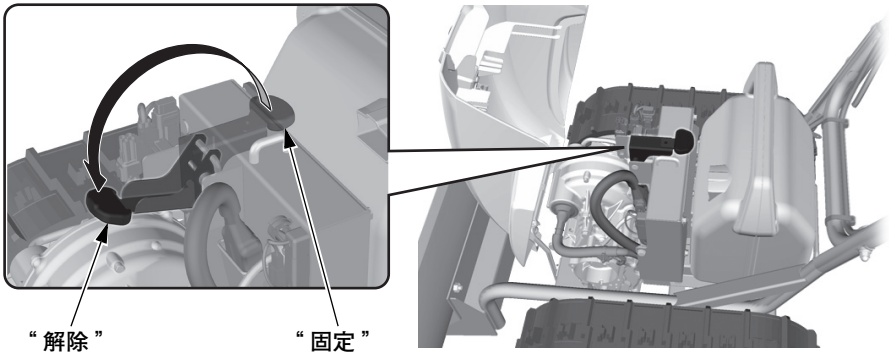
接続コネクターを抜くときはコードを持たず、接続コネクターの側面をつまんで抜いてください。



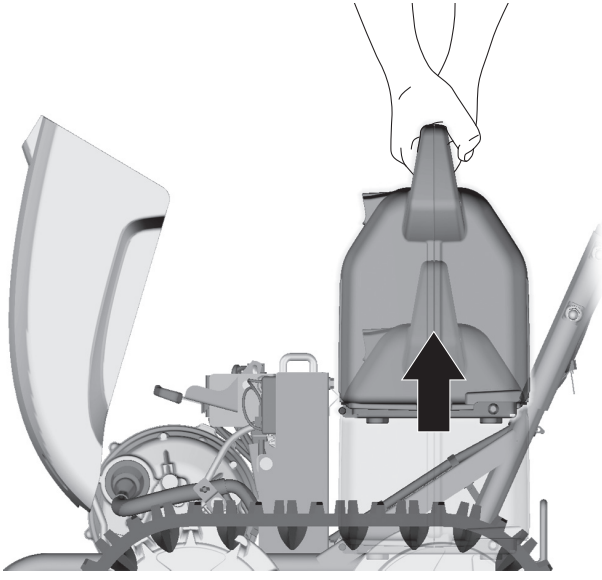
3.接続コネクターを収納スペースに格納します。



4.ロックレバーを “**固定**” から “**解除**” の位置にします。



5.バッテリーパックのハンドルを持ち、バッテリーパックを取外します。

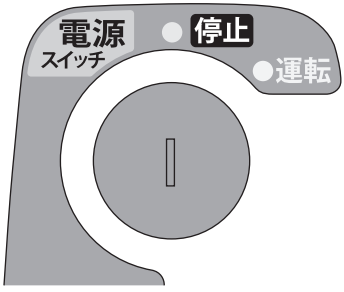


⚠注意

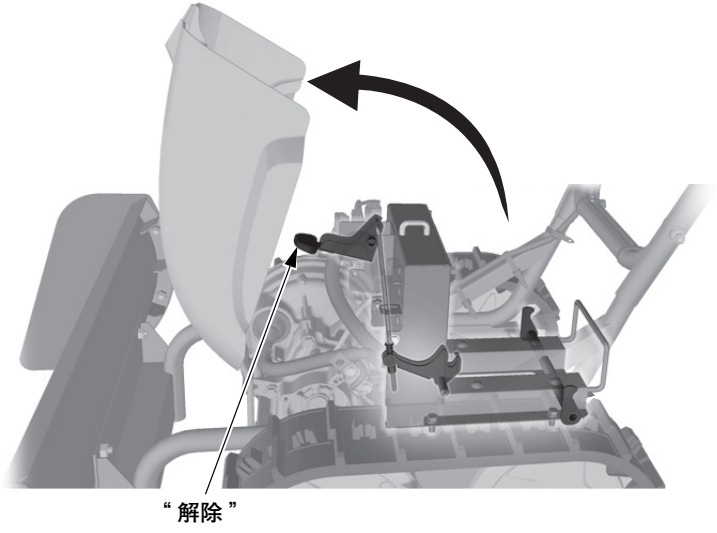
バッテリーパックの重量は 16kg です。取外し、取付けの際は、腰などを痛めないようにバッテリーパックのハンドルを両手でしっかり持ってください。また、足などに落下させないようご注意ください。

・取付けの手順

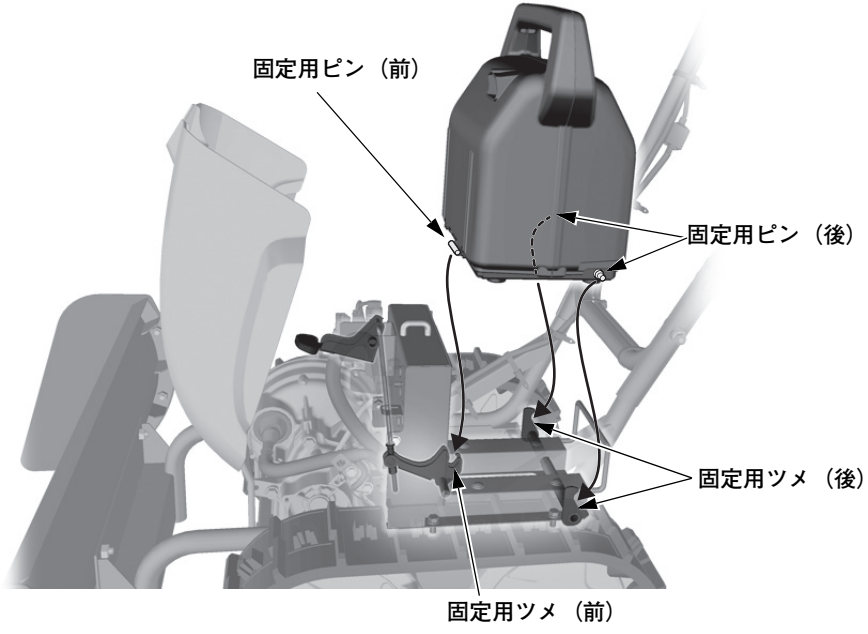
1.電源スイッチキーが抜かれていることを確認してください。



2.トップカバーを開け、ロックレバーが “解除” の位置になっていることを確認します。



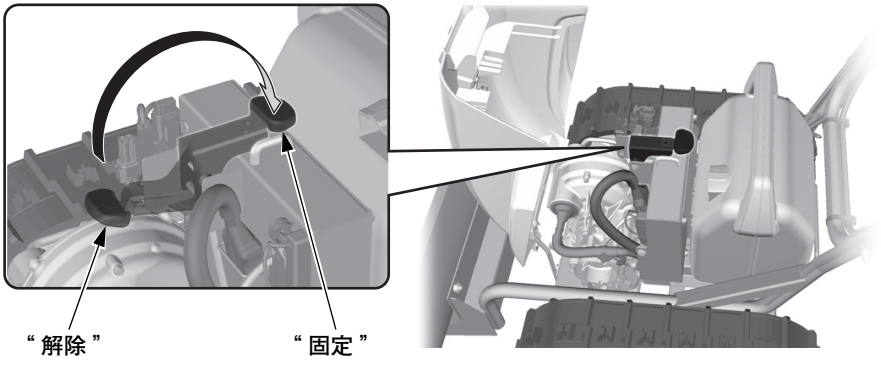
3.バッテリーパックをセットします。
バッテリーパック底部には固定用ピンがあり、本体には固定用ツメがあります。バッテリーパックを置く部分や、ツメの部分にゴミや雪、氷などの異物がある場合は取り除いてください。
バッテリーパックは接続コネクター差込口がある方が前側になります。
バッテリーパックをセットするときはバッテリーパックの固定用ピンと、本体の固定用ツメが噛み合うようにセットしてください。



⚠注意

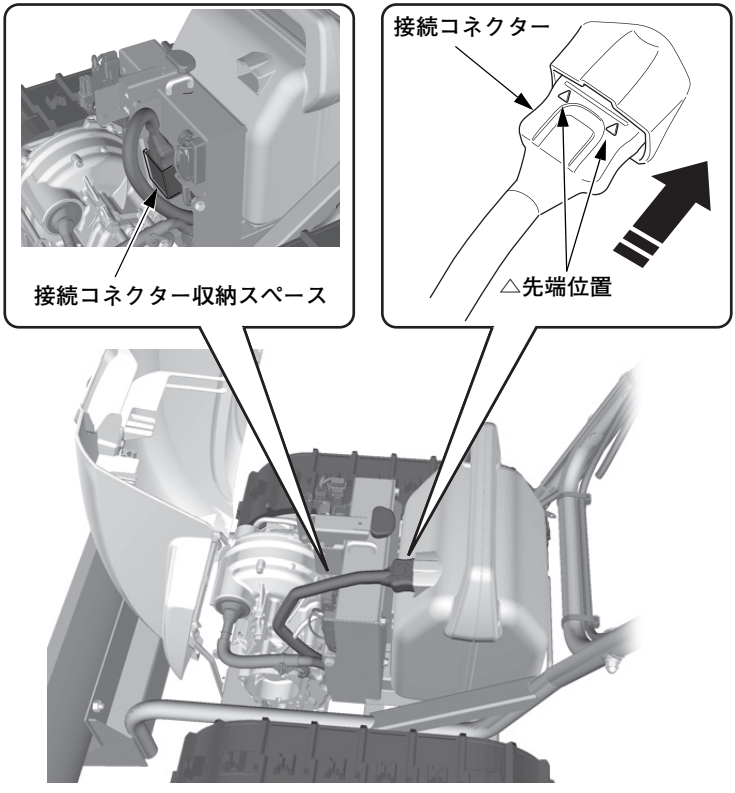
- バッテリーパックの重量は 16kg です。取外し、取付けの際は、腰などを痛めないようにバッテリーパックのハンドルを両手でしっかり持ってください。また、足などに落下させないようご注意ください。
- バッテリーパックを上から落としてセットしないでください。バッテリーパックの破損、本体の固定用ツメの破損につながります。

4.ロックレバーを “**固定**” の位置にします。

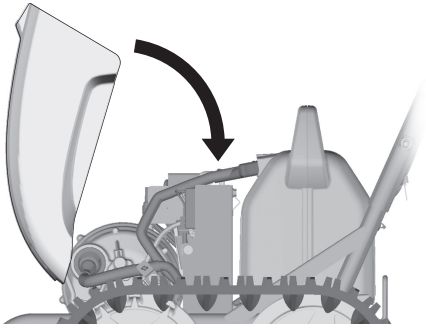


5.バッテリーパックのハンドルを持ち、上下左右に動かしてバッテリーパックがしっかり固定されていることを確認します。
もし、固定できていない場合は、ロックレバーを “**固定**” から “**解除**” の位置にしてバッテリーパックを両手で持ち上げ、再度 3.、4. の手順を行ってください。

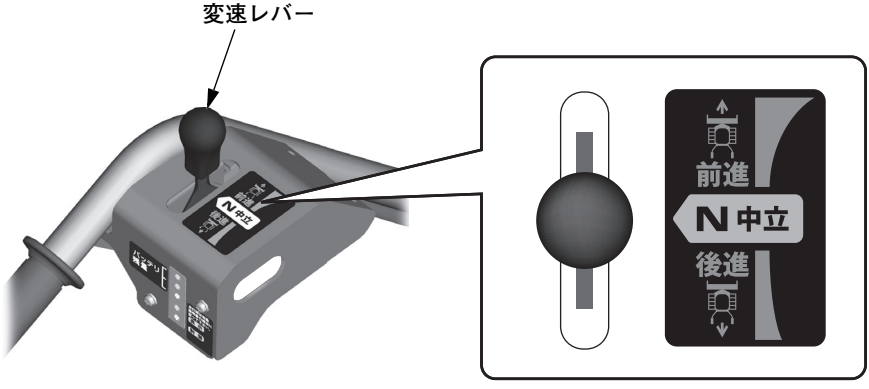
6.バッテリーパックの周りに雪や水滴等がないことを確認します。その後、収納スペースから接続コネクターを取り出し、バッテリーパックの差込口に接続コネクターを△の先端の位置まで差込みます。



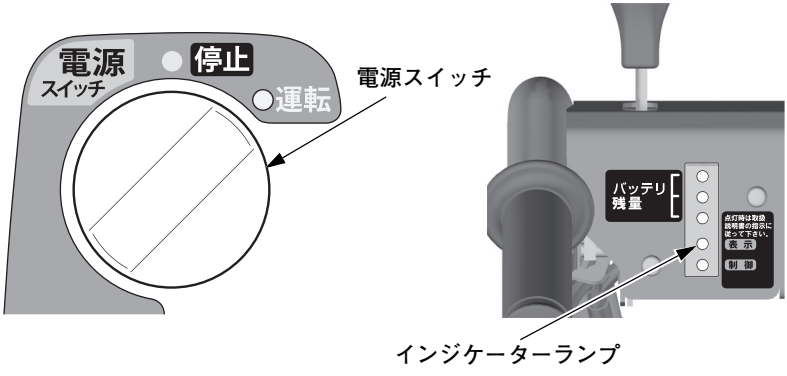
7. トップカバーを閉めます。



8. 変速レバーが “**中立**” の位置にあることを確認します。



9.電源スイッチキーを差し込み、電源スイッチを “**運転**” の位置にして、インジケーターランプが点灯することを確認してください。
もし、点灯しない場合は電源スイッチを “**停止**” の位置に戻して、接続コネクターの差込等を確認してから再度電源スイッチを “**運転**” の位置にして、インジケーターランプの点灯を確認してください。



作業をする前に点検しましょう

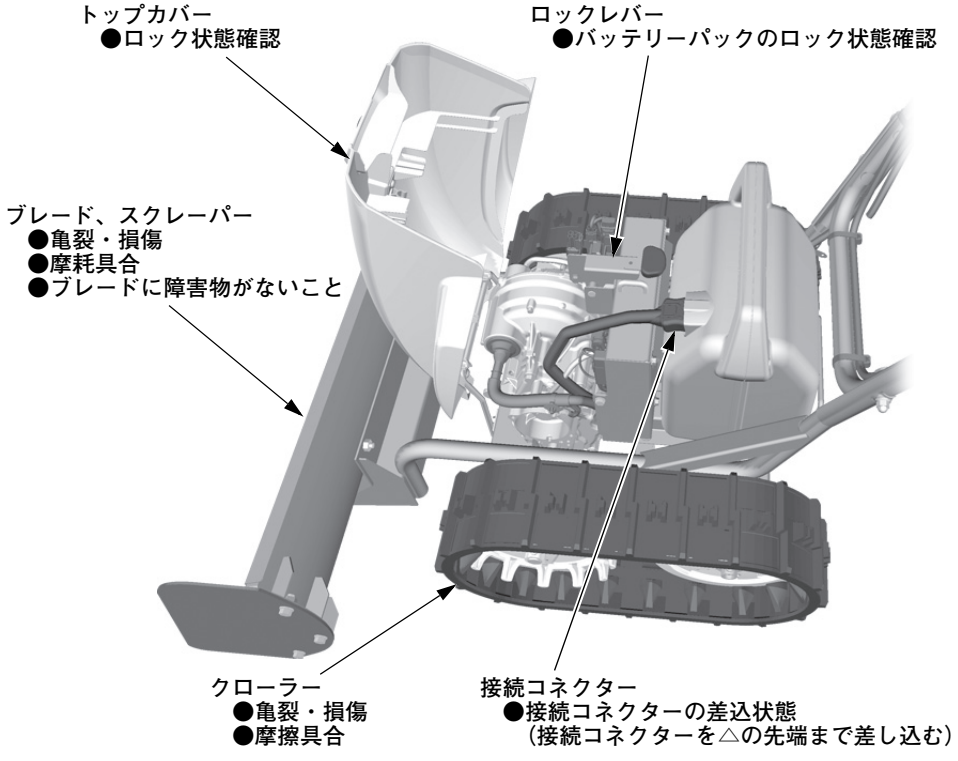
⚠警告

・点検・整備は平坦な場所で本機を水平にし、電源を “停止” の位置にし、電源スイッチキーを抜いて行ってください。

・充電中はバッテリーパックの点検・整備を行わないでください。

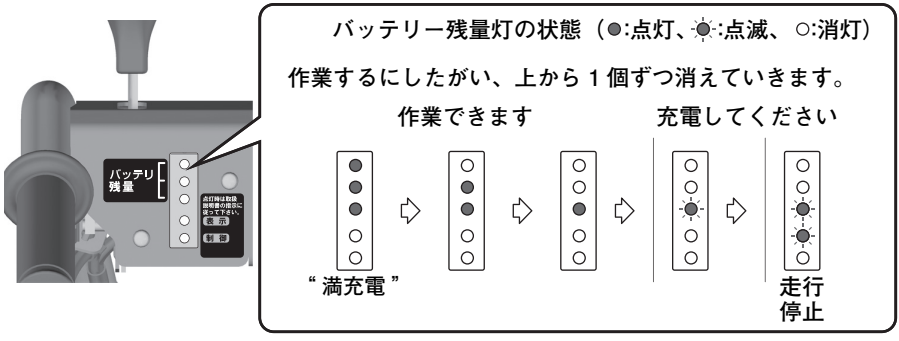
バッテリーパックや接続コネクターの周りに雪や水滴などがないことを確認してください。

使用する前に



バッテリー残量の点検

電源スイッチを “**運転**” にして、バッテリー残量灯で確認します。



運　転　操　作　の　し　か　た

除雪をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”（4 頁参照）の項目を良くお読みになり除雪作業に取掛かってください。

⚠注意

- 除雪作業をするときは、手袋、帽子、防寒服、防寒靴など防寒用の身支度をしてください。
- 本機の操作を行う場合には本機後方中央部に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。
- トップカバーは開けたままで除雪しないでください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちに電源スイッチを “停止” の位置にし、電源スイッチキーを抜き、接続コネクターを抜いて、お買いあげ販売店にお申しつけください。

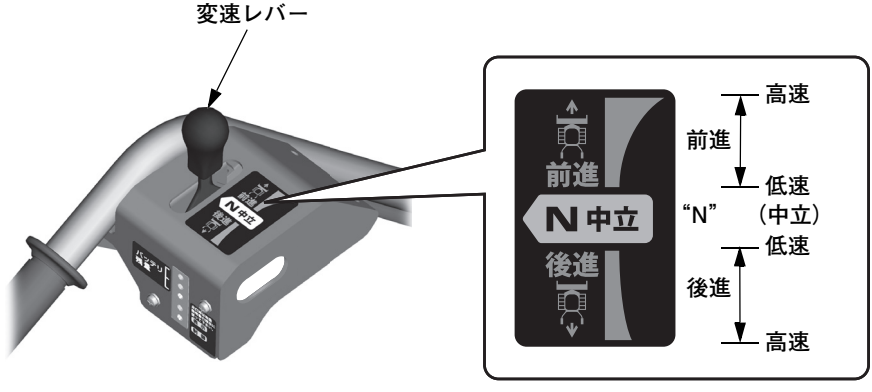
1. 起動

走行レバーから手を放した状態で、電源スイッチを “**運転**” の位置にします。

・電源スイッチを “**運転**” にした際、走行レバーが握られていると誤発進防止機能が作動します。走行レバーから手を放して操作してください。

2. 運転操作

－ 1. 変速レバーの位置を動かし、進行方向（“**前進**” または “**後進**”）と最高速度を設定します。

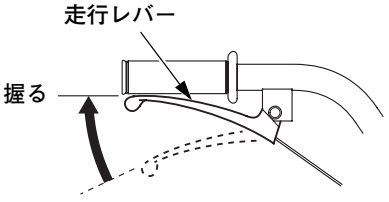


⚠注意

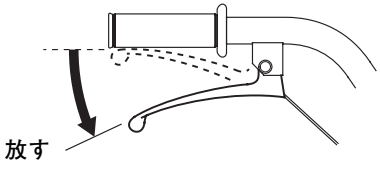
傾斜地で、ハンドルから手を放すと、本機が空走することがあるので十分気をつけてください。

－ 2. 走行レバーを操作することにより、本機の走行および停止が行えます。発進時、走行レバーをゆっくり握って本機が動き始めたらそのままレバーを握って除雪作業をしてください。

レバーを握る→ 本機が走行を開始し、走行速度が上がります。



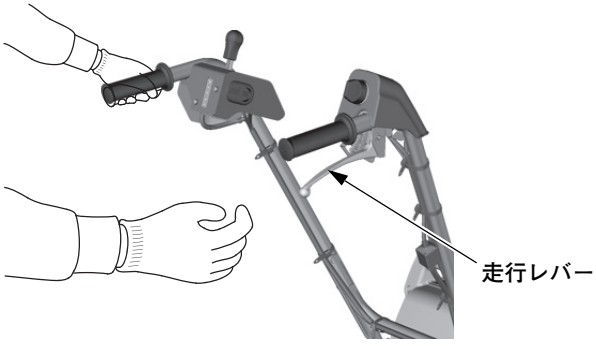
レバーを放す→ 走行速度が下がり、本機が停止します。



取扱いのポイント

- 走行レバーは徐々に握ることにより、本機をゆっくりと動かすことができます。
- 走行レバーを完全に握ることで、変速レバーで設定した最高速度に達します。
- 本機を旋回させる際には、走行レバーを少し握って低速で行うと、スムーズに旋回させることができます。
- 前後進の切換をする場合は、走行レバーを完全に放し、本機が停止してから変速レバーで切換えてください。
  走行レバーを握ったまま､変速レバーを “ 中立 ” の位置で止めずに “ 後進 ” → “ 前進 ” 、あるいは “ 前進 ” → “ 後進 ” に切換えた場合、走行中進行方向切換時停止機能が働き本機は停止します｡再び走行するには、走行レバーから手を放し、もう一度、走行レバーを握りなおしてください。
- 走行レバーを握りながらでも、変速レバーを “ 中立 ” で一旦止め、本機が停止してから前後進を切換えた場合、走行中進行方向切換時停止機能は働きません。

－ 3. 走行を停止する場合は走行レバーを完全に放してください。
その際に本機が完全に停止したことを確認してください。

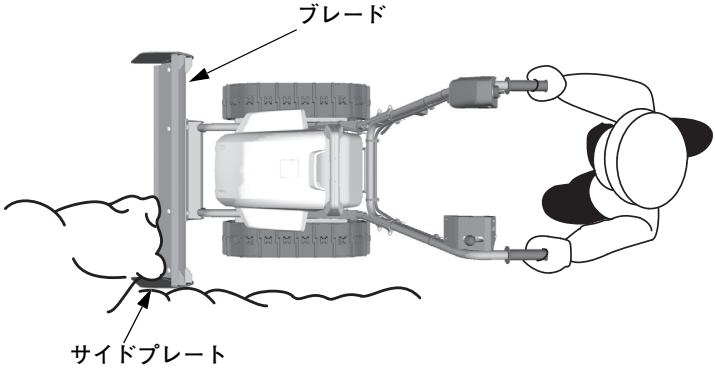


3. 除雪のしかた

除雪作業はクローラーをスリップ（空転）させずに行うことが重要です。そのためには次の要領を参考にして除雪作業を行ってください。

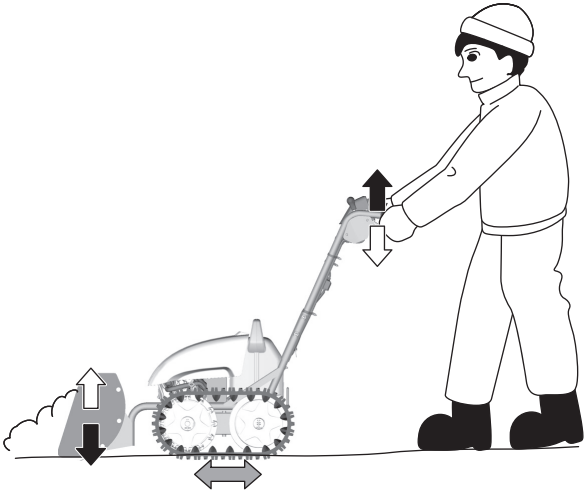
・除雪幅を狭くする方法

深い雪や固くなった雪の場合は、ブレードに掛かる雪幅を狭くして除雪作業を行ってください。またブレードのサイドプレートを使って雪を切り込んで少しずつ除雪してください。



・前後進除雪の方法

深い雪や、重い雪の除雪作業時には、ブレードにたまった雪が多いと進みにくくなることがあります。ハンドルを少し押し下げ、ブレードの高さを調整しながら前進、後進を繰り返して除雪してください。



・ハンドルを下に押し付ける方法

ブレードに雪がたまった状態で、クローラーがスリップ（空転）してしまうような場合は、ハンドルに下方向の力を加えて押し付けることで、クローラーに荷重が掛かり、駆動力を増加させることができます。ただし、クローラーが停止してしまうような場合は、負荷が重すぎるので、それ以上押し続けることは避けてください。

取扱いのポイント

・クローラーが止まってしまうような状態で走行レバーを握り続けないでください。モーターに悪影響をあたえます。

・作業中に異常な振動や音が発生し始めた場合には、直ちに運転を中止し、その原因を調べてください。異常な振動や音は故障による場合があります。

除　雪　機　の　止　め　か　た

⚠警告

平坦な場所に駐車してください。傾斜地に駐車すると、本機が空走し事故の原因になります。

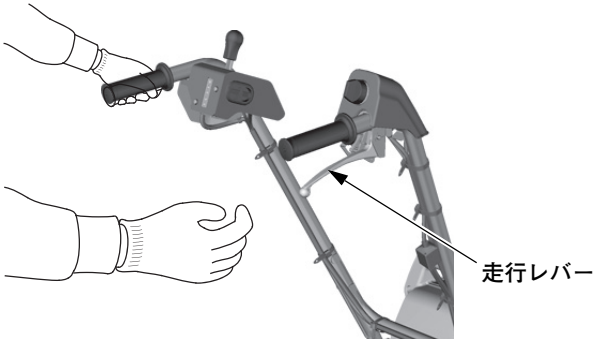
・緊急停止する場合

電源スイッチを “**停止**” の位置にします。

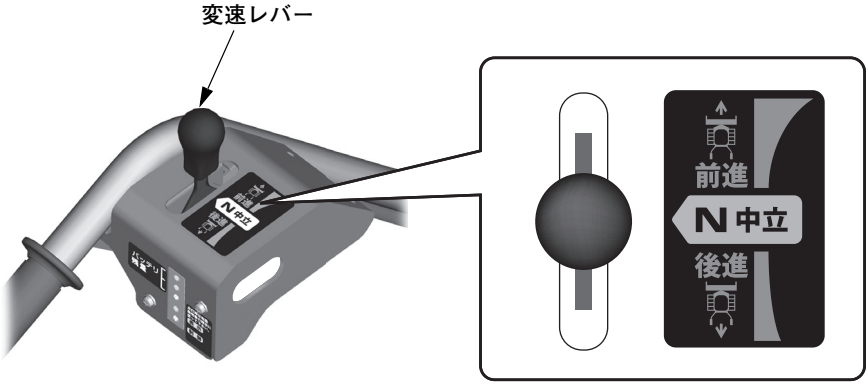


・通常停止の場合

1.走行レバーから手を放します。



2.変速レバーを “ **中立** ” の位置にします。



3.電源スイッチを “ **停止** ” の位置にして、電源スイッチキーを抜きます。



取扱いのポイント

・作業後は、各部の雪を取除いて格納してください。雪が付いたまま放置すると凍結し、次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。

・本機を格納するときはボディカバーなどをかけて格納してください。

定 期 点 検 を 行 い ま し ょ う

お買いあげいただきましたHonda除雪機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

定期点検表

点検時期（1） 点検項目		作業前点検	シーズン毎		4年毎または300時間運転毎
			除雪時期初め	除雪時期終わり	
クローラー	点検		○		
	調整		○（2）		
スクレーパー	点検	○	○ （必要に応じて交換） （2）		
バッテリーパック	点検	○	○（2）		
充電器	点検	○（充電時）			
各部締め付け	点検	○			
作動確認	点検	○			
走行ミッションオイル	点検、給油				○（2）
格納時各部防錆、給油	塗布、給油			○（2）	

(1) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

(2) 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス店で実施してください。

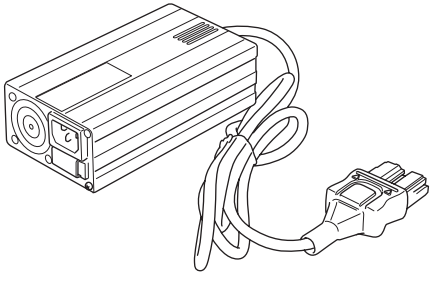
点　検　・　整　備　の　し　か　た

点検・整備を行う前に作業内容を確認してください。ご自身で作業できない場合、お買いあげ販売店またはサービス店へご相談ください。

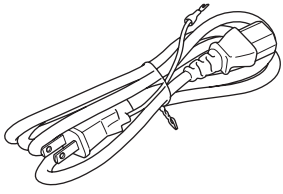
⚠警告

点検・整備は平坦な場所で必ず本機を停止し、誤って本機が起動しないように、必ず電源スイッチを “停止” の位置にし、電源スイッチキーを抜き、バッテリーパックから接続コネクターを取外してから行ってください。

付属部品



専用充電器



電源コード



スペアヒューズ　5A



スペアヒューズカバー

専用充電器、電源コードの点検

専用充電器および電源コードに亀裂、破損などの異常がないことを確認します。異常が見つかった場合、交換が必要ですのでお買いあげ販売店、またはサービス店に依頼してください。

バッテリーパックの点検

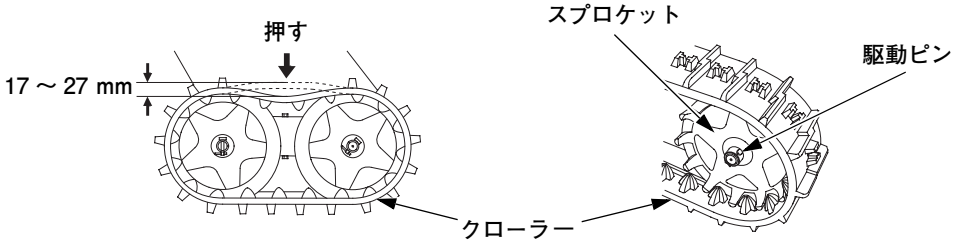
バッテリーパックにゆがみ、亀裂、破損などの異常がないことを確認します。異常が見つかった場合、交換が必要ですのでお買いあげ販売店、またはサービス店に依頼してください。

クローラーの点検

クローラー中央部を強く（約 150 N（15 kgf））押したときたるみが適正寸法になっていることを確認します。確認後、クローラーの張りが適正寸法になかったり、駆動ピンが破損、脱落している場合には調整、または交換が必要ですのでお買いあげ販売店、またはサービス店に依頼してください。

クローラーの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。またスプロケットの駆動ピンが破損、脱落しているとクローラーが正常に動かず走行できなくなることもあります。

適正寸法：17 ～ 27 mm



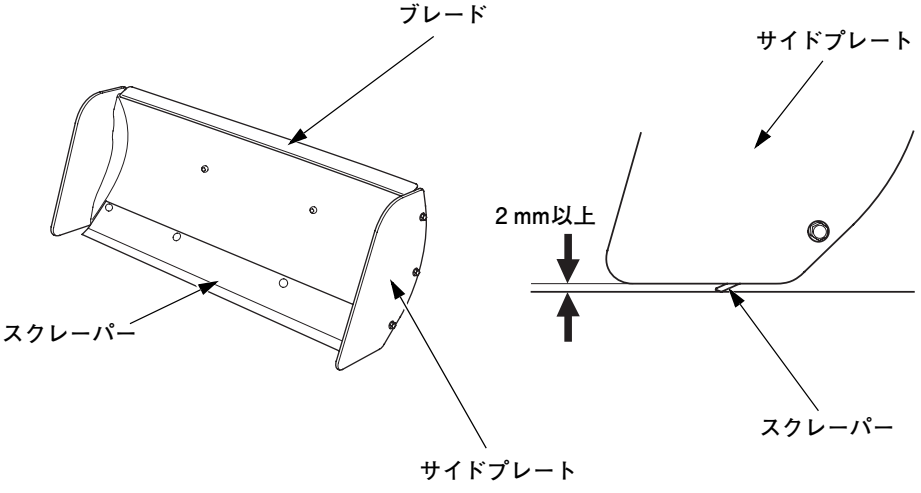
取扱いのポイント

クローラー（ゴム）が凍結しているときは正しい張り点検ができません。
必ず凍結を取り除いてから点検してください。

スクレーパーの点検

本機を平坦な場所に置き、スクレーパーを接地させ、サイドプレートと地面との隙間を確認してください。隙間が2 mm 以下の場合は交換が必要ですのでお買いあげ販売店、またはサービス店に依頼してください。

スクレーパーが摩耗してしまうとサイドプレートとブレード本体が路面と干渉し、摩耗して破損の原因になります。



ヒューズについて

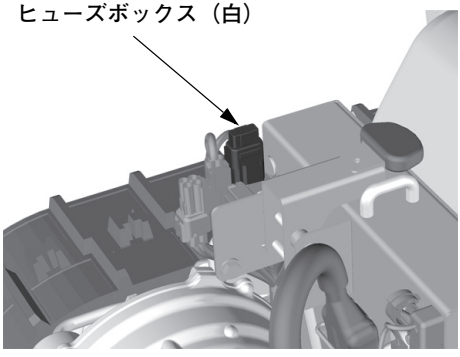
ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

取扱いのポイント

指定ヒューズ以外の物、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線などを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

《交換のしかた》

1. トップカバーを開けてください。
2. ヒューズボックス（白）を開けて、切れたヒューズを新品のヒューズと交換してください。
   - 5 A のスペアヒューズが同梱されています。（36 頁参照）
   - 指定ヒューズは、お買いあげ販売店にご注文ください。



電源が入らないときは

- ヒューズに異常がないことを確認してください。
- ヒューズに異常がない場合は、お買いあげ販売店で、点検・修理を受けてください。

各部の作動点検

年 1 回除雪時期の初めに定期点検表 （35 頁参照） に従い、点検を行ってください。また、除雪作業前には次の点検を行ってください。

- 各部締付の点検
- 各種スイッチ、可動部分の作動の点検

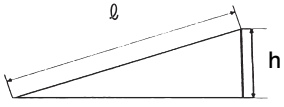
運　搬　す　る　と　き　は

アユミ板を使ってのトラックへの積み降ろし

《積み降ろしをする前に》

1. 積み降ろしは平坦な場所で行ってください。
2. 使用するアユミ板は本機の重量＋作業者の体重に耐えられる物を使用してください。
   本機の総重量：69 kg

3. 下の表を目安に傾斜角度が 15 度以下になるようなアユミ板を選んでください。



アユミ板の長さ（ℓ）	2.5 m	3.1 m	3.5 m
地面からアユミ板までの高さ（h）	50 cm	60 cm	70 cm

4. ほろまたは、キャブ付のトラックでは、あらかじめ荷台入口の高さを確認してください。
5. バッテリー残量が十分あることを確認してください。残量が少ないと停止してしまうことがあります。

《手順》

(1) アユミ板の幅をクローラーの幅に合わせます。
(2) ハンドルを押し下げて、ブレードが接地しない位置まで上げます。

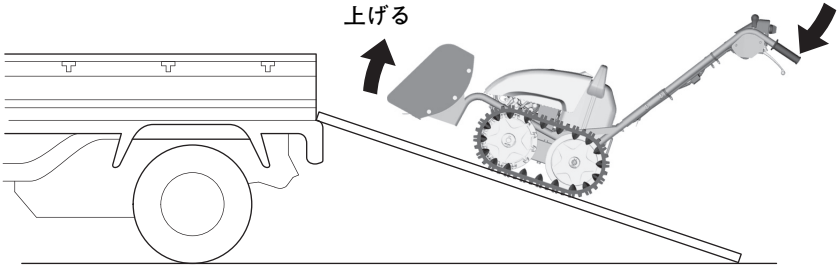
(3) 変速レバーを “**前進**” の位置にして、走行レバーを少し握り本機をゆっくり動かします。

(4) 除雪部が当たらないように注意しながら本機をトラックの荷台に乗せてください。

(5) 本機が完全に荷台に乗りましたら電源スイッチを “**停止**” の位置にし、変速レバーを “**中立**” の位置にしてから電源スイッチキーを抜いてください。

⚠注意

アユミ板の上を移動途中での本機の走行停止はさせないでください。万一停止した場合は、本機が空走することがありますので、本機のハンドルをしっかり支えながら、十分注意してゆっくりアユミ板から降りてください。再起動は必ず平坦なところで行ってください。(29 頁参照)



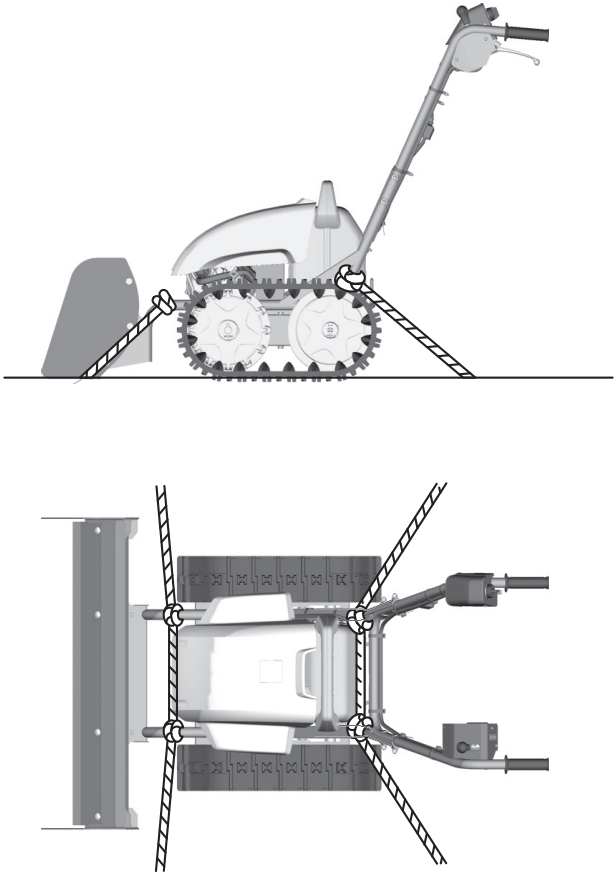
取扱いのポイント

バッテリー切れや故障などで、やむをえず手押し移動する場合は、本機のハンドルをしっかり支えながら、ゆっくり移動してください。
また、トラック等で牽引して移動させないでください。本機に悪影響を与えるおそれがあります。

ロープによる固定方法

トラック等に積載したら、電源スイッチキーが抜かれていることを確認し、下図の箇所をケーブルやハーネスを必ず避けてロープ等で固定してください。

〈ロープのかけかた例〉



長期間使用しないときの手入れ

除雪シーズンが終わり長期間格納するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次の手入れを必ず行ってください。

長時間本機を使用しない場合は、本機からバッテリーパックを取り出して湿気の少ない場所で保管してください。

保管条件が良くないとバッテリーの性能や寿命の劣化、サビの原因になるおそれがあります。

バッテリーは自然放電しますので保管前に仕上げ充電が完了するまで充電し、その後少なくとも 3ヶ月毎に専用充電器で補充電を行い、仕上げ充電が完了した状態にしてください。

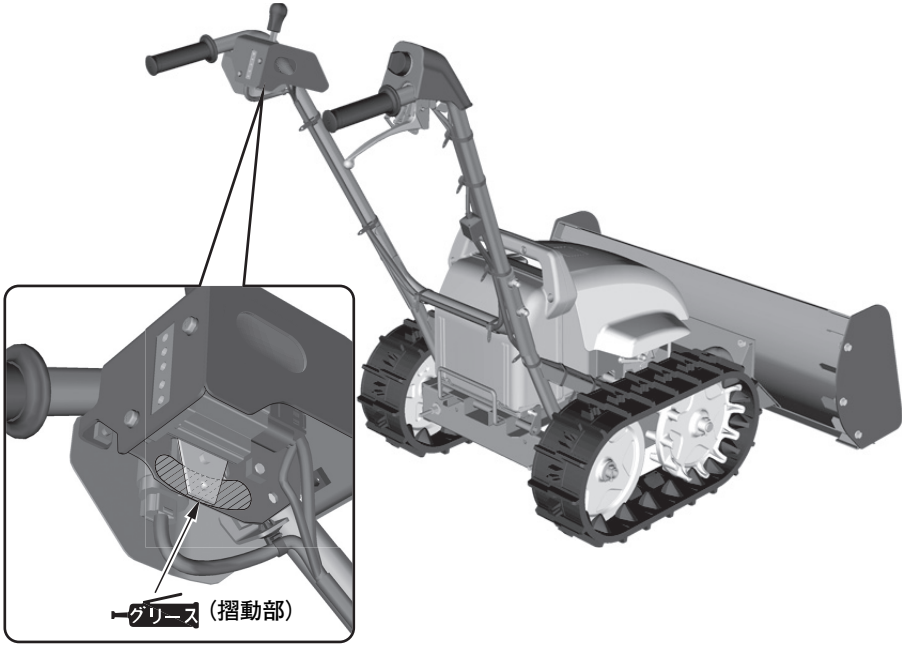
3ヶ月毎に仕上げ充電を行わなかった場合、バッテリーが著しく劣化し、次のシーズンに使用できなくなるおそれがあります。

⚠警告

- バッテリーを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリー液は希硫酸です。バッテリー液が皮膚や衣服に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流してください。また、バッテリー液が目に入ったときは、すぐに多量の水道水などのきれいな水で洗った後、医師の治療を受けてください。希硫酸が目に入ると失明をしたり、皮膚に付くとヤケドの原因となります。

・保管時の給油箇所

作業が終わり次のシーズンまで保管する前に次の箇所にグリースを塗布してください。ご自身で作業できない場合、お買いあげ販売店またはサービス店へご相談ください。



故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、早めにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことが、除雪機を長持ちさせる秘けつです。毎年シーズン前に点検を受けましょう。

起動しないときは、次の点を確かめましょう。

1.起動方法は、取扱説明書どおりですか？（29 頁参照）
2.電源スイッチは “**運転**” の位置になっていますか？（29 頁参照）
3.バッテリー残量は足りていますか？（28 頁参照）
4.接続コネクターは△の先端の位置まで差し込まれていますか？（24 頁参照）
5.ヒューズが切れていませんか？（39 頁参照）

少し時間をおいて
もう一度確めましょう

調子が悪いときは下表にしたがい点検し、処置をしてください。

・処置をおこなっても異常がある場合は、むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店へご相談ください。

症状	点検・処置のしかた	参照頁
電源が入らない	バッテリーパックから接続コネクターが外れていませんか？ →接続コネクターを確実にバッテリーパックに差し込んでください。	24 頁参照
	ヒューズが切れていませんか？ →ヒューズを交換してください。	39 頁参照
走行しない	保護機能（誤発進防止機能）が働いていませんか？ →走行レバーから手を放し、もう一度、走行レバーを握ってください。	30、49頁参照
	電源スイッチが“**停止**”の位置になっていませんか？ →“**運転**”の位置にしてください。	29 頁参照
	変速レバーが“**中立**”の位置になっていませんか？ →走行させたい方向にレバーを設定してください。	29 頁参照
	バッテリーの残量が不足していませんか？ →バッテリーを充電してください。	14、28頁参照
スピードが出ない	変速レバーが低速の位置になっていませんか？ →変速レバーで最高速度を調節してください。	29 頁参照
	バッテリー残量が不足していませんか？ →バッテリーを充電してください。	14、28頁参照
停止する	保護機能（走行中進行方向切換時停止機能）が働いていませんか？ →走行レバーから手を放し、もう一度、走行レバーを握ってください。	30、51頁参照
	段差や溝で動かない状態になっていませんか？ →段差や溝が大きすぎて乗り越えることができません。回避してください。電源スイッチを“**停止**”の位置にし、再度“**運転**”の位置にすることで走行可能になります。	34、51頁参照
	バッテリー残量が不足していませんか？ →バッテリーを充電してください。	14 頁参照

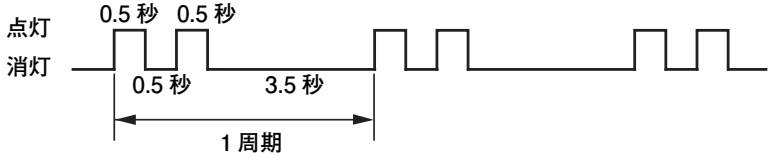
症状	点検・処置のしかた	参照頁
充電ができない	専用充電器の電源プラグ、接続コネクターが抜けていませんか？ →電源プラグ、接続コネクターがキチンと差し込まれていることを確認してください。	15頁参照
	バッテリーが著しく消耗していませんか？ →バッテリーパックを本機から取り外して24時間程度放置してください。 バッテリーの電圧が回復して充電可能になる場合があります。 それでも充電できない場合はお買いあげ販売店かサービス店へご相談ください。	13頁参照

故障診断機能

運転中に故障もしくは故障につながる異常が発生した場合、制御灯（赤）が点灯し、表示灯（橙）が故障内容に対応した点滅回数を繰り返し点滅表示します。故障中であれば、電源スイッチを“停止”の位置にし、再度電源スイッチを“運転”の位置にすると故障内容に対応した点滅回数を繰返し点滅表示します。

- **表示灯（橙）の点滅周期は 0.5 秒点灯、0.5 秒消灯。故障回数点滅後に 3.5 秒消灯時間があり再度の繰り返しをします。**

例、 2回点滅の場合: 0.5秒点灯→0.5秒消灯→0.5秒点灯して3.5秒消灯し繰り返します。



故障診断表

インジケーターランプの点灯・点滅		不具合内容	原因	処置
制御灯（赤）	表示灯（橙）点滅回数			
点灯	2回	インターフェースユニット初期化異常 モーターECU 初期化異常	インターフェースユニットもしくはモーターECU 内部異常	お買いあげ販売店へお申し付けください。
	3回	変速レバーポテンショスイッチ故障 走行レバーポテンショスイッチ故障	変速レバーセンサーもしくは走行レバーセンサーの断線・短絡	
	4回	通信系異常	インターフェースECU とモーターECU 間の通信ラインの異常	
	5回	モーター系異常	モータードライバー信号故障 電動機駆動回路短絡ロック異常	
	8回	ドライバー入力電圧異常	バッテリー異常	平坦で安全な場所に移動させてから、5 分間キーOFF 後再起動 ※1
	11回	FET 過熱・過電流検出 ※2	過負荷によるモーターの過熱	
	12回	モーターサーミスター異常	モーターサーミスターの断線・短絡	お買いあげ販売店へお申し付けください。
消灯	9回	イニシャル未完了	イニシャル未完了	

※1 再起動後も点滅する場合はお買いあげ販売店へお申し付けください。
※2 再起動後は過負荷作業を避けてください。

異常にお気づきの場合はお買いあげ販売店へお申し付けください。

故障ではないが

そのままの状態で操作を続けると故障につながったり、または再発進するために時間を必要とする状態になると、保護機能が働き表示灯（橙）、バッテリー残量灯（緑）が点滅表示して、注意を促します。

また、まちがった操作または無理な操作による事故を防ぐために保護機能が働く際にも、表示灯（橙）が点滅表示して、注意を促します。

インジケーターランプの表示が同じでも、使用状況により警告理由が異なります。下記を参照して対処してください。

バッテリー残量灯は、その時のバッテリー残量によって点灯数が変化します。

・警告が出て、本機が発進できない

インジケーターランプの点灯・点滅		保護機能	原因・処置のしかた	参照頁
表示灯（橙）	バッテリー残量灯（緑）			
点滅	点灯または点滅	誤発進防止機能	走行レバーを握ったまま、電源スイッチを“**運転**”の位置にした。 →走行レバーを一度放し、もう一度走行レバーを握ってください。	30 頁参照
点滅	1 灯のみ点滅	バッテリー残量不足警告	バッテリー残量が不足している。 →バッテリーを充電してください。	14、28 頁参照

・停止中に警告が出てしまった

インジケーターランプの点灯・点滅		保護機能	原因・処置のしかた	参照頁
表示灯（橙）	バッテリー残量灯（緑）			
消灯	3 灯同時に点滅	電源 ON 放置警告	電源スイッチを“**運転**”の位置にしたまま、3 分間停止状態（走行レバーが離された状態）が続いていた。 →走行レバーを握って、走行させると警告表示が解除されます。 運転を継続しない場合は、電源スイッチを“**停止**”の位置にしてください。	30、34 頁参照

・走行中に警告が出てしまった

→下り坂を走行していた場合

インジケーターランプの点灯・点滅		保護機能	原因・処置のしかた	参照頁
表示灯（橙）	バッテリー残量灯（緑）			
点滅	点灯または点滅	バッテリー過電圧保護警告	バッテリー充電完了の満充電状態で急な下り坂を走行し、過充電状態になっていた。 →この状況で走行し続けると停止します。速度を落とし、低速運転してください。	30 頁参照

→下り坂以外を走行していた場合

インジケーターランプの点灯・点滅		保護機能	原因・処置のしかた	参照頁
表示灯（橙）	バッテリー残量灯（緑）			
点滅	点灯または点滅	過負荷警告	本機の能力以上の重さの雪を運んで走行レバーを握っていた。 →電源スイッチを一度 “**停止**” の位置にもどし、5 分ほど経った後、再起動してください。 再起動後は過負荷の原因を取り除き、作業を再開してください。	29、34 頁参照

・警告が出て、本機が停止してしまった

→障害物（大きな段差や溝）を乗り越えようとしていた場合

インジケーターランプの点灯・点滅		保護機能	原因・処置のしかた	参照頁
表示灯（橙）	バッテリー残量灯（緑）			
点滅	点灯または点滅	モーターロック警告	クローラーが回らない状態のまま走行レバーを握っていた。 →電源スイッチを一度 “停止” の位置にもどし、5 分ほど経った後、再起動してください。 再起動後は大きな段差や溝を回避して、作業を再開してください。	29、34頁参照

→路面に障害物が確認できない場合

インジケーターランプの点灯・点滅		保護機能	原因・処置のしかた	参照頁
表示灯（橙）	バッテリー残量灯（緑）			
点滅	点灯または点滅	過熱警告	過負荷が続く状態で走行レバーを握っていた。 →電源スイッチを一度 “停止” の位置にもどし、5 分ほど経った後、再起動してください。 再起動後は過負荷の原因を取り除き、作業を再開してください。	29、34頁参照
点滅	点灯または点滅	走行中進行方向切換時停止機能	走行レバーを握ったまま、変速レバーを一気に逆方向に切換えた。 →走行レバーを一度放し、もう一度走行レバーを握ってください。	30 頁参照

インジケーターランプの点灯・点滅		保護機能	原因・処置のしかた	参照頁
表示灯（橙）	バッテリー残量灯（緑）			
点滅	3灯点滅	バッテリー過電圧保護警告	バッテリー充電完了の満充電状態で急な下り坂を走行し、過充電状態が続いていた。 →安全な所へ動かして電源スイッチを一度“停止”の位置にもどし、5分ほど経った後、再起動してください。下り坂の走行は避けてください。	30、34頁参照
点滅	1灯点滅	バッテリー残量不足警告	バッテリー残量が不足しています。 →バッテリーを充電してください。	14、28頁参照
点滅	点灯または点滅	バッテリー低電圧保護警告	瞬時的にバッテリーの電圧が低下しました。 →電源スイッチを一度“停止”の位置にもどし、5分ほど経った後、再起動してください。再起動後は過負荷作業は避けてください。また、バッテリーを充電してください。	14、28頁参照

適切な対処を行ったにもかかわらず警告がおさまらなかったり、動かない場合は、お買いあげ販売店にご連絡ください。警告が発生しているときの状態（インジケーターランプの点灯・点滅している箇所）を正確にお知らせください。

主　　要　　諸　　元

名　　称	SB800e
タ　イ　プ	J
制　御　方　式	走行レバーによる無段階制御
バ　ッ　テ　リ　ー	制御弁式鉛蓄電池（12V-20Ah）× 2
駆　動　モ　ー　タ　ー	DC ブラシレスモーター（24V）
充　電　器	2 段階定電圧 /2 段階定電流充電（2 段階温度補正付き）
バッテリーパック重量	16kg

フ　レ　ー　ム

全　　長	1,320 mm
全　　幅	820 mm
全　　高	975 mm
乾燥質量（重量）	68 kg
除　雪　幅	800 mm
除　雪　高	330 mm

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

メ　　モ

メ　　モ

メ　　モ

Honda 汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120 － 112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9：00 ～ 12：00　13：00 ～ 17：00

〒 351-0188　埼玉県和光市本町 8 － 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda 汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

（1）製品名、タイプ名
（2）ご購入年月日
（3）販売店名

HONDA

The Power of Dreams

30V46602
00X30-V46-6020

Ⓞ (FM) 1500.2014.10
© 2016 本田技研工業株式会社